

第34期（2020年4月1日～2021年3月31日） 事業報告書

第34期、2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）は、基調事業としての奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第17号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

財団の財政収支面では、双日㈱から公益目的事業費及び管理費向に1,400万円の寄附を頂いた。

基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、4,144万円の運用収益を確保でき寄付金を加えた経常収益合計では5,544万円となった。

基本財産を形成している債券の価額は、時価評価増減を主として149万円減少となり、今期末の基本財産額は前期末比59万円減少の合計21億8,445万円となった。

[I] 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は2020年度事業計画に定められていた43案件のうち奨学金助成は略予算並みの2,454万円を示したが、国際交流助成は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け事業計画42案件・1,645万円に対し31案件が中止となり、事業実績は11案件・189万円と大幅な助成事業支出の減額となった。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

- ・今期は応募なし

ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (2,454万円)

2020年度は昨年同様21大学の奨学生、以下の21名に対し奨学金を支給した。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ① キム イエジ | (九州大学 医学部保健学科) |
| ② ヨウ シンイ | (東北大学大学院 環境科学研究科) |
| ③ イスクレスク ミコラ | (東京大学大学院 理学系研究科) |
| ④ パリザ アイルボ | (一橋大学大学院 経済学研究科) |
| ⑤ パク ジュヒ | (慶応大学大学院 法学研究科) |
| ⑥ カブレラ クリストファー
マイケル | (名古屋大学大学院 人文学研究科) |
| ⑦ デン エイイン | (京都大学大学院 農学研究科) |
| ⑧ リ エイイン | (北海道大学大学院 情報科学院) |

- ⑨ ラミレス ヤコトウス イエラ (北海道大学大学院 情報科学院)
ホセ
- ⑩ キム ジンゴン (筑波大学大学院 数理物質科学研究科)
- ⑪ マラタ ザヤ (千葉大学大学院 融合理工学府)
- ⑫ ショウ エイ (東京工業大学大学院 物質理工学院)
- ⑬ サイプリアン ケイトリン ミチ (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科)
エル
- ⑭ チェン カミール ベティナ メ (上智大学大学院 地球環境学研究科)
イ アギラー
- ⑮ グエン ホン アイン (横浜国立大学大学院 国際社会化学府)
- ⑯ カテライ アメリアヌル (大阪大学大学院 人間科学研究科)
- ⑰ リエン ブーチェン (神戸大学大学院 人間発達環境学研究科)
- ⑱ ホアン ゴックビッグ チャン (岡山大学大学院 教育学研究科)
- ⑲ マディナ アブドワリ (広島大学大学院 医歯薬保健学研究科)
- ⑳ デイッサ シャキナ アーダニサ (立命館アジア太平洋大学大学院 アジア太平洋研究科)
- ㉑ ムハンド ファヒム (熊本大学大学院 自然科学教育部)

ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

* (当初助成額→実績)

1. 「第 72 回 日米学生会議」への助成 (オンライン開催、減額助成) (40 万円→20 万円)
5 月の春合宿、6 月の防衛大学研修、在福岡米国領事館協力下での主席領事による講演などを通じた事前オンライン勉強会実施の後、8 月の本会議を迎えた。
日米学生会議史上初のオンライン本会議では、「第二次世界大戦ディベート」「危機管理」「ポスト COVID-19」「米国内人種差別に対する運動とその世界的影響」「日本の国際化」「原爆の歴史」などオンラインならではの多方面からの議論ができた。
開催時期： 2020 年 8 月 8 日～18 日 (本会議)
開催地： オンライン開催
参加人員： 日本 35 名、 米国 24 名 計 59 名
2. 「第 39 回 日中学生会議」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40 万円→0)
3. 「2020 年度 日中青年会議」への助成 (開催中止) (40 万円→0)
4. 「第 35 回 日韓学生会議東京大会」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40 万円→0)
5. 「第 36 回 日韓学生フォーラム」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40 万円→0)
6. 「第 24 期 日本インド学生会議」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40 万円→0)

7. 「第 23 期 日本トルコ学生会議本会議」への助成 (開催中止) (40 万円→0)
8. 「第 18 回 日本イスラエルパレスチナ合同学生会議」への助成 (開催中止) (40 万円→0)
9. 「第 32 回 日本ロシア学生会議」への助成 (開催中止) (40 万円→0)
10. 「日仏学生フォーラム事業 2020 渡仏プログラム」への助成 (開催中止) (30 万円→0)
11. 「第 5 回 日英学生会議」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40 万円→0)
12. 「日本ポーランド学生会議 2020」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (20 万円→0)
13. 「2020 年度 Y7/Y20 Summit 日本代表団派遣事業」への助成 (オンライン開催、減額助成)
(30 万円→10 万円)

毎年 G7・G20 サミット開催に合わせて開かれるこの Youth Summit は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況から日本代表団を派遣できずオンラインでの開催となった。

世界各国の代表ユースと日本ユースと共に「平和と安全保障」「国際性と貿易」、「仕事の未来」「持続可能な開発」などをテーマに政策提言につきオンラインディスカッションを行った。

開催時期： 5 月 16 日～17 日 (Y7 オンラインディスカッション)

7 月 19 日 (Y20 オンラインディスカッション)

8 月 23 日 (Youth Future Forum)

開催地： オンライン開催

参加人員： 参加 20 か国・日本代表 Y7 /Y20・7 名、Y7 各国代表 32 名/Y20 代表 30 名

14. 「2021 年度模擬国連会議全米大会日本代表団派遣事業」への助成
(オンライン開催、減額助成) (30 万円→5 万円)

毎年ニューヨークで開催される模擬国連会議全米大会に日本から大学生の代表団を送る事業だが、コロナ禍で渡米プログラムが中止され、国際機関によるブリーフィングとオンライン全米大会の 2 プログラムが 3 月から 4 月にかけて行われた。

今年度の提携校米国 Riverside City College と担当国スウェーデン大使代表団として会議に参加し世界各地から募った学生と模擬国連会議で国際問題についてオンラインでの議論を交わした。模擬国連活動を通じて国際問題や国際社会への理解を深めることができた。

開催時期： 3 月 1 日～19 日 (オンラインによる国連・政府機関でのブリーフィング)

3 月 29 日～4 月 1 日 (オンラインによる全米大会)

開催地： オンライン開催

参加人員： 日本派遣 18 名、提携校アメリカ Riverside City College 8 名

大会規模はカナダ・フランス・中国・南アフリカなどアジア、アフリカの国々まで世界中から 300 以上の大学から約 5,000 名、今回はオンラインで集結。

15. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2020」への助成 (開催中止) (30万円→0)
16. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2021 年本会議東京大会」への助成
(オンライン開催、助成辞退) (30万円→0)
17. 「STeLA Leadership Forum 2020」への助成 (開催中止) (40万円→0)
18. 「第 66 回 国際学生会議」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (40万円→0)
19. 「LINK Summer Project」への助成 (開催中止) (30万円→0)
20. 「京論壇 2020」への助成 (オンライン開催、助成辞退) (30万円→0)

(国際交流)

21. 「日比青年の交流を通し、日本文化理解を広めるスタディツアー」への助成
(オンライン開催、助成辞退) (30万円→0)
22. 「日アジア介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト 3 年目」への助成
(開催中止) (80万円→0)
23. 「“MrJ” プロジェクト日本語夏期講習サマースクール」への助成
(オンライン開催、助成辞退) (40万円→0)
24. 「ジュニア・フェロー・リーダーシップ・プログラム」への助成 (30万円→23万円)
例年は選抜されたアメリカの高校生が日本でのホームステイ、学校体験、研修旅行、地域の活動への参加等、短期リーダーシップ研修を実施してきたが、本年度はコロナウイルス感染拡大から、訪日が叶わずオンライン開催とした。リーダー研修では「教育の質の向上」「海洋汚染」「貧困」の日米の意識比較、意見交換が行われ、パネルディスカッションでは「日米の人種問題」につき米国の大学教授の講演を通じて幅広いディスカッションが行われた。日米の学生交流イベントを加える形で一層の親交を深める機会を持った。
開催時期：6月13日～8月30日(リーダー研修及びパネルディスカッション)
開催地：日米オンライン開催
参加人員：米国ジュニアフェロー21名、日本ジュニアフェロー19名
25. 「MPJ Youth 2020 年度アフリカ研修」への助成 (オンライン開催) (30万円→15万円)
Zoom 会議方式でのルワンダ関連の機関(在ルワンダ日本国大使館・JICA等)・企業による講演を通じて、ルワンダに関する知識を深めることができた。また、コロナ禍なれど3班に分かれ公園など換気の良い近隣を散策するなどお互いの理解を深めた。
開催時期：2021年3月14日～3月18日

開催地： オンライン開催

参加者： 日本 12 名、ルワンダ学生 3 名（東京外語へ留学中の学生）

26. 「Hallo Japan 2020」への助成（オンライン開催、助成辞退）（30万円→0）
27. 「International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2021」への助成（オンライン開催）（40万円→10万円）
ミャンマーと日本の若者が自ら交流機会を創り、将来に向けて関係を築いていく「Recreating The Future」をテーマとして、IDFC 初となるコロナ禍ゆえのオンラインイベントを実施。
「オンライン文化交流」「若者の政治参加」「ASEAN の学生と考える多文化共生とこれからの未来」本会議での「ミャンマーの未来のために」を各議題とし在ミャンマー日本国大使館の外交官からもお話しいただきミャンマーの政変下での現状を知る機会となった。オンライン会議なれどミャンマー人学生とのディスカッションを通じ有意義な国際交流ができた。
開催時期： オンラインイベント 10 月、12 月、1 月、2 月
開催地： オンライン開催
参加者： 日本 9 名、ミャンマー 11 名 計 20 名
28. 「福祉から社会参加へ：アジアの障がい者が実践する『芸術の効果』に関するシンポジウム事業」への助成（30万円）
芸術・文化・表現活動を通じて多文化共生社会やダイバーシティを促進する目的で活動。コロナ禍でアートの実演などリアル開催できずオンラインでの「アートとインクルージョンと多様性に関する国際シンポジウム」のみが実施された。タイの障がい者の社会参加事業についての基調講演に続き、参加 9 か国の代表から「福祉から社会参加」への活動内容につき紹介され、事例を共有すると同時に今後の活動指針を考える場となった。
開催時期： 2021 年 3 月 6 日
開催地： オンライン開催
参加国： フィリピン・ミャンマー・マレーシア・カンボジア・香港・台湾・タイ・シンガポール・日本の 9 か国 29 名
29. 「Global Classmates Summit2020」への助成（オンライン開催）（40万円→20万円）
参加した 1,864 名の高校生の中から、日本人、アメリカ人各 8 名、合計 16 名の高校生を選抜。バーチャル開催の中、「相互理解」「日米関係」「民間外交」といったテーマに加え、今年は「パンデミックによる学び」「反人種差別主義と国際社会」といった国際社会が直面している課題についても取り組んだ。より多くの地域の 100 名を超えるホストにご参加頂き、参加者達にとっては、二国間関係や国際社会への貢献意欲の高まる機会となった。
開催時期： 7 月 25 日～8 月 14 日
開催地： バーチャル開催（ZOOM ウェビナーを使用）
参加者： 日本 8 名、アメリカ 8 名 サミット参加者 1,864 名
30. 「ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ中学校 4 年 6 組、4 年 7 組 2024 パリオリンピッククラス

東京オリンピック・パラリンピック親善・使節団旅行) (開催中止) (40万円→0)

31. 「2020年とやま世界こども演劇祭」 (開催中止) (30万円→0)

32. 「ビヨンドトゥモロー アジア・サマープログラム2020」 (開催中止) (30万円→0)

33. 奨学生交流会(兼奨学生OB会) (オンライン開催) (200万円→6万円)

毎年恒例の奨学生交流会は、財団役職員及び出捐会社である双日㈱の関係者を一堂に会し奨学生との交流を図ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、Zoom会議システムを活用したオンライン交流会として開催。第1部では、総合商社双日㈱の会社説明会、第2部では、財団の佐藤理事長、榎引専務理事との懇談会が行われ、オンライン交流会といえども、奨学生の皆さま、財団役職員ともに有意義な時間を過ごすことができた。

開催時期： 9月10日

参加者： 奨学生 19名、 役員他関係者 7名 計26名

(日本文化紹介等)

34. 「第45回 ジャパンウィーク2020年スペイン・セビリア」への助成 (開催中止) (30万円→0)

35. 「山本能楽堂バルカン半島巡回能楽公演2020」への助成 (開催中止) (40万円→0)

36. 「2020年 ウェリントン・ジャパン・フェスティバル」への助成(開催中止) (30万円→0)

37. 「くむんだーを使った日豪文化交流」への助成 (開催中止) (30万円→0)

(日本語普及事業等)

38. 「日本とパプアニューギニア・ソグリ高校生間のSDGs国際交流 (開催中止) (65万円→0)

39. 「第25回海外高校生による日本語スピーチコンテスト並びに日本青少年と海外青少年による異文化理解及び交流プログラム」への助成 (開催中止) (30万円→0)

40. 「第5回ハノイ日本語教育講演会・動画プレゼンバトル」への助成 (20万円)

ベトナムの日本語教師を対象に、ベトナム国内外の日本語教育専門家を招き講演会を実施。成果を日本語学習者に還元するためプレゼンテーション大会「日本語動画プレゼンバトル」も行い、ベトナムの日本語教育全体の発展につなげた。

開催時期： 11月15日、12月12日

開催地： ベトナム(ハノイ・ダナン・ハイフォン会場) オンライン中継

参加人員： 講演会参加者 38名

41. 「Japanese Learning Inspired Vision and Engagement Talk 2020」への助成 (30万円)

今回は1次審査で全米の10州とワシントンDCから26校、47名が応募し、審査を経た9人のファイナルナリストがZoom上でライブプレゼンテーションを行い、その模様がYouTubeでライブ配信された。例年入賞者には日本への短期留学費用、奨学金などが贈られるが、今年度はコロナ禍で留学が成らず、高校部門、大学2部門にそれぞれ賞金のみが与えられた。コロナ禍でのハードルを乗り越えてオンライン上での効果的なプレゼンテーションができた。

開催時期： 11月14日

開催地： Zoomによる開催、YouTubeで同時配信

参加人員： 全米応募者 47名 大会当日YouTube視聴者 830名、

42. 「タイビン地域における日本語学習者増加プロジェクト」への助成

(開催中止) (30万円→0)

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。 合計195万円

1. 財団ホームページの更新・運営 (43万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第17号」の発行 (152万円)

2020年10月「財団だより - 第17号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、出捐会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、2019年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

[Ⅱ] 管理・庶務事項

2020年	4月1日	2020年度奨学生募集を開始
	5月14日	会計監査人による決算期末監査及び監査報告会
	5月21日	第74回評議員会を紙上開催 ・宮崎評議員（前任三宅氏）選任決議
	6月4日	第101回理事会を紙上開催 ・2019年度事業報告書及び決算報告書を承認 ・理事長・専務理事の職務執行状況の書面報告
	6月24日	第75回評議員会を紙上開催 ・2019年度事業報告書及び決算報告書を報告
	6月29日	第99回選考委員会を紙上開催 ・新規奨学生14名を選考
	6月30日	2019年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
	7月9日	第102回理事会を紙上開催 ・新規奨学生14名を助成承認
	9月10日	2020年度奨学生との交流会をオンラインに開催
	10月6日	機関誌「財団だより 第17号」を発行
	11月1日	2021年度国際交流助成募集開始
	12月21日	2021年度国際交流助成募集〆切
2021年	2月24日	第100回選考委員会を開催 ・2021年度助成案件を選考
	3月24日	第103回理事会を開催 ・2021年度助成案件(案)及び2021年度事業計画(案)を承認 ・2021年度収支予算(案)を承認 ・2020年度公益事業実施準備基金繰入ご承認の件 ・理事長・専務理事の職務執行状況の書面報告
	3月31日	2021年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以上